

特集面・野麦峠まつり見学会感想文

飛騨高根野麦峠まつり実行委員会・小坂守会長

この度は日本労働ペンクラブの皆様には令和8年5月24日開催の第44回野麦峠まつりにご参加頂きまして誠にありがとうございました。日本労働ペンクラブ様には本年度の労ペン総会において「あゝ野麦峠、殖産興業を支えた近代化の礎となった製糸工女の故郷飛騨への道」が労働遺産として認定証のご交付を頂き、そのうち「野麦峠まつり」は労働遺産として初めて無形遺産として認定していただき大変名誉な事で、ありがとうございました。

今年の第44回野麦峠まつりは飛騨高根野麦峠まつり実行委員会と松本奈川野麦峠まつり実行委員会の共催として、野麦峠の岐阜県側にあります、お助け小屋広場周辺の映画「あゝ野麦峠」のヒロイン政井みね兄妹石像が見つめる中で開催されました。

野麦峠(標高1672m)は早朝より霧雨に熊笹も濡れていましたが、開会直前に皆様の思いが天に届き、快晴と成り新緑の中、乗鞍岳も雄姿を現しました。岐阜県側では明治期から昭和初期にかけて飛騨の寒村の12歳からの少女たちは貧しいがゆえに僅かな契約金で真冬の野麦峠を越えて信州岡谷の製糸工場へと出稼ぎに赴いた糸引工女を偲び、彼女たちの苦難に思いを馳せて、当時と同じ女性の御高祖頭巾姿とわらじを履いて、男性は工女を監督する検番役の衣装等で約20人が池の周囲を500m歩きます、初めてわらじで歩いた少女は足指の痛み我当时の工女に思いを寄せました。

その後に政井みねさんの像に献花し、長野側から峠道を1時間歩いた奈川の工女行列と合流して記念撮影を行いました。

峠まつりの式典は田中高山市長の挨拶後、日本労働ペンクラブ代表の植木様の紹介もありました。長野県岡谷蚕糸博物館の高林館長が工女たちが日本の、近代化を支えた事を説明され、飛騨市の語り部・鮎飛定男さんも登壇し、工女であった祖母の楽しい思い出を紹介し「映画では過酷に描かれているが真実を知って欲しい」と話されました。

イベントでは音楽家中ムラサトコさんが飛騨の娘が故郷を思い歌った「糸引工女の唄」を披露し、最後に参加者が輪になり野麦地区の民謡「野麦イササ」を踊りました。飲食ブースには高根の手打ち火焔蕎麦、岩魚の塩焼き等々が出て、皆様美味しく頂きました。

また「野麦峠まつり」のプレイベントとして4月12日に映画「あゝ野麦峠」のデジタルリマスター版の飛騨高山特別上映会を行いました、昭和54年に公開され大ヒットした作品で野麦峠も全国的に有名になりました、800席完売でした。

飛騨高山は国際観光都市として外国人も多くびっくりしますが、高根町は現在人口 250 人で過疎化高齢化が進行していますが、みんなで頑張っています。

国定公園となった霊峰、御嶽山の麓の日和田高原は高地トレーニングのメッカで青山学院大学陸上部も合宿に来ます。美しい白樺林の古道を散策し、石仏巡りも心が癒されます。美味しいタカネコーンや火畑蕎麦と、美人の湯：温泉旅館七峰館で、夏は満天の星空、冬はダイヤモンドダストを体験したり、癒されにお越しください。